

1 組織

(1) 東京都立田無高等学校 学校運営連絡協議会(全日制課程)

(2) 事務局の構成 主幹教諭(教務部主任兼務) 事務局長、他に生徒指導主任、進路指導主任、広報主任

(3) 内部委員の構成

校長 副校長 経営企画室長 教務部主任 生徒指導部主任 進路指導部主任 広報部主任 各学年主任
3名 計10名

(4) 協議委員の構成

西東京市立田無第一中学校長 都立田無特別支援学校長 学校関係者 同窓会副会長 PTA会長
白雲木会長 警察署生活安全課長 計8名

2 令和4年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会(第1回～3回)の開催日時、出席者、内容、その他

第1回 令和4年6月22日(水) 内部委員10名 協議委員7名

協議委員委嘱、評価委員の選出、併せて以下の資料を各委員に配布し、学校運営の意見と評価を依頼した。

(資料) 東京都立田無高等学校学校運営連絡協議会設置要綱、令和3年度学校経営報告、令和4年度学校経営計画、教育活動報告(校務分掌・学年)資料、令和4年度組織目標、令和3年度学校評価アンケート

第2回 令和4年11月24日(木) 内部委員10名 協議委員7名

学校評価アンケート実施計画案の検討、学校評価の評価項目修正案の検討、情報交換・意見交換

第3回 令和5年2月10日(金) 協議会を书面開催とし、以下の資料を各委員に送付し、学校運営の意見等を依頼した。(資料) 学校評価アンケート評価結果の分析・考察、教育活動報告(校務分掌・学年)資料

(2) 評価委員会の開催日時、出席者、内容、その他

第1回 令和4年6月22日(水) 評価委員2名

学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察
今年度の学校評価の実施に向けた検討

第2回 令和4年11月24日(木) 評価委員4名

今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討の検討

第3回 令和4年2月10日(金) 書面による開催

アンケートの集計結果の分析・考察、課題の整理、学校評価分析・考察

3 学校運営連絡協議会による学校評価(学校評価報告)

(1) 学校評価の観点

教育目標の達成度、教科の指導目標の達成度、生徒の学校生活の充実度、教職員の取組状況、教育相談体制の充実度、健康・安全の配慮、広報活動の充実度

(2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

昨年度の学校運営連絡協議会の報告を受け、アンケートはオンラインツールを活用して実施した。また、出席番号や氏名を記入しないようにして匿名性を高めた。

・12月 全校生徒 887名 回答： 683名(77%)

・12月 保護者全員 887名 回答： 326名(37%)

・12月 教職員 47名 回答： 47名(100%)

・地域住民 23名 回答： 23名(100%)

(3) 主な評価項目

・学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、広報活動、健康・安全、施設・設備などの評価項目を学校の実態に合わせて設定した。生徒については自らの取り組み状況を合わせて質問した。

ライフ・ワーク・バランスの推進に関する評価項目を教員、保護者対象に設定して5年目となる。

(4) 学校評価アンケート結果及び分析・考察

学校評価アンケート結果とともに過去5年間の同アンケートの肯定的な回答率の推移を分析・考察した。

- ① 学校運営<1 学校生活の満足度>昨年度と比べて、肯定的回答が減少した。生徒が17ポイント、教職員が14ポイント下落した。ただし、保護者はあまり変わらなかった。<2 2 その他>「田無高校には、自慢できるものがある。」という質問に対して、保護者は大きく変わらないが、生徒が27ポイント下落、教職員が19ポイント下落した。50周年に向けて本校の特徴を見つめなおし、良さを再発見する必要がある。
- ② 学習指導<2 授業への意欲>全ての学年において、8割以上が「熱心に授業に取り組む」と回答している。一方で、教職員の肯定的回答は73%であることから、生徒と教員の評価に差異が大きいことが分かる。<3 自学自習>生徒の授業外の学習時間について、昨年度と比べて、教職員の肯定的回答が3ポイント上昇した一方で、生徒及び保護者の肯定的回答が減少した。Teams を活用した自宅学習課題を出しているが、生徒は十分に組み立てていない可能性がある。<5 補習・補講>昨年度に比べて、生徒、教職員ともに、肯定的回答の割合が減少した。今夏は全ての普通教室で空調工事を実施したため、講習を十分に実施できず、生徒には不自由な思いをさせることになった。より一層、意図的・計画的な講習や補習を実施し、生徒の自学自習の時間確保・増加につなげていく必要がある。
- ③ 生活指導<6 ルールの順守>生徒の肯定的回答は9割、保護者の肯定的回答の割合が8割であり、高い水準を推移しているが、教職員の肯定的回答は昨年度と比べて12ポイント下落している。教員の問題意識が高まっているとともに、守るべき基準について、生徒・保護者と教員間での認識が異なってきた可能性がある。<8 ルール順守の指導>保護者及び教職員はあまり変わらないが、生徒の肯定的回答は16ポイント下落している。ルール・規則・校則について、保護者からは理解されており、教職員は守らせるべく指導しているものの、生徒に意図が十分伝えられていない可能性がある。より一層、丁寧に説明していく。<9 いじめ・体罰>肯定的回答は、保護者は変わらないものの、生徒は11ポイント、教職員は13ポイント下落した。暴言、不適切な指導、体罰の根絶と併せて、いじめの未然防止、早期発見・対応を進め、生徒一人一人の人権を尊重した指導を進めていく。
- ④ 進路指導<1 2 進路ガイダンス>肯定的回答は、全体で下落しているが、特に保護者の肯定的回答の低さに課題がある。学校から家庭へ十分に進路情報を提供できていない可能性がある。進路に関連する回答を見ると、学年が上がるにつれ肯定的回答が上昇する傾向があるが、総合型選抜や学校推薦型選抜が増えてきた現状を踏まえると、早期の進路指導に取り組む必要がある。1、2年生から家庭との連携を深め、キャリア教育を推進する。
- ⑤ 広報活動<1 4 学校説明会>生徒の肯定的回答の落ち込みが激しく、14ポイント下落している。学校説明会で思い描いた学校生活と実際が違っている可能性がある。<1 6 広報活動>肯定的回答が昨年度と比べて7ポイント下落した。外部への広報は行っているが、生徒達は校内の活動を分かっていないのではないかと。さらに広報活動を推進する。
- ⑥ 健康・安全<1 7 健康・安全指導>生徒と教職員の肯定的回答の割合に、乖離がある。肯定的回答は、生徒が7ポイント、教職員が13ポイント下落した。今年度、特別支援教育推進委員会を活性化させ、支援の必要な生徒について情報共有を進めている。問題意識が高まっている可能性がある。<2 0 心のケア>昨年度と比べると肯定的回答が急減している。生徒が18ポイント、教職員が14ポイント下落した。より一層丁寧に、学校全体で生徒の心のケアに取り組んでいく。
- ⑦ 施設・設備 昨年同様、施設・設備面では、老朽化が進んでいるため、生徒の肯定的回答は低い水準である。全面改修や一部改修を含め要求を継続していく。また、生徒の安全・安心を確保し学習を保障する環境づくりを最優先事項として学校全体で計画的に予算措置をしながら整備していく。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ① 保護者や地域の方々から、学校生活全般に対しての理解では一定の評価を得られており、安心して通わせる学校として機能していることが確認できた。
- ② 全教職員が生活指導について共通理解を深め、一丸となって指導を進めていくことの重要性を確認できた。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ① 本校では伝統的に学校行事を大切にしてきた。学校評価アンケートで、「本校には自慢できるものある」との設問で肯定的回答が少なかった理由は、この3年間、コロナ禍で従来通りの行事を実施できず、生徒も教員も苦勞しながら過ごしてきたからではないか。本校の良さを学校行事以外にも再発見する必要があることが分かった。委員からは、学校の良さを地域に情報発信する重要性について指摘があった。さらに推進していく。
- ② 今年度、学校評価アンケートの匿名性を高めオンラインで実施したことにより、回収率が下がり、全体的に肯定的回答が下落したが、次年度の方針を立てる上で参考となる意見も多く寄せられた。委員からは、無記名の場合、批判的的回答ほど集まりやすいという意見があった。
- ③ 委員からは、学校全体で生活指導を推進していく大切さとともに、子ども基本法の施行を見据え生徒の意見を取り入れる等、指導方法の改善が課題であるという指摘があった。より良い生活指導について検討していく。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 学習指導について

- ① 学力の定着と補習授業や講習を組織的・計画的に行う他、授業改善を行う。
- ② 新学習指導要領に対応した学習指導と授業力向上及び新入試制度へ具体的方策を基に実践する。
- ③ 学力の定点調査・分析に基づき、校内研修で各教科及び教科間の連携による基礎学力の定着を図る。

(2) 生徒指導について

- ① あらためて教職員が校則の理解を深め、生活指導の在り方について共通理解を図り、生徒の意見を取り入れる工夫をしながら、服装や頭髪などの身だしなみの指導や学校外での規範意識の向上を図る指導を継続的に行う。
- ② 保護者・地域関係機関と緊密に連携し、交通安全指導の充実を図る
- ③ 「いじめ」防止及び盗難事故等をゼロにし、教員による体罰等を根絶する安心・安全な学校環境をつくる。

(3) 進路指導について

- ① 3年間を見通したキャリア教育を組織的に推進し、進路指導体制を確立させる。
- ② 三者面談等の相談体制を充実させ、保護者への情報提供と生徒の進路実現に向けた指導の強化を図る。
- ③ 教務部と連携して、自学自習の習慣を確立させる取組や学力の定着及び、全教職員の模試分析等計画的な校内研修の実施など進学指導の充実を図る。

(4) 特別活動について

- ① 学校行事についての広報活動を保護者や地域住民にさらに積極的に実施する。
- ② さらにホームページを活用し学校の取組成果・情報を効果的に発信する。

(5) 学校全体について

- ① 地域と一体となった企画や行事を企画し、地域に根付いた学校をさらに構築させる。
- ② 地域との連携をより推進し、地域に開かれた学校としての認知度を定着させる。

6 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 8人

(2) 学校がよくなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
2	2	0	0	0	1	3

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

参加実績なし

8 その他

次年度、質問項目を精査する。